

このうえなき喜び

20世紀の開拓伝道者
R. J. ライトの伝記



ベルニー・リード著

このうえなき喜び

20世紀の開拓伝道者

R. J. ライトの伝記

伝道出版社

NO GREATER JOY
THE STORY OF BOBBIE WRIGHT
20th Century Pioneer
by Bernie Reid

DEDICATION

For Eirene

EVANGELICAL PUBLISHING DEPOT

5-17 Higashi 2 chome
Kunitachi Shi, Tokyo 186
Tel. & FAX (0425)72-2070



結婚当時のライト夫妻



1948年頃の伝道出版社



国立市にある現在の伝道出版社(1992年)



茶会を楽しむR. J. ライト兄、その隣りの男性は故築山兄

はしがき

喜びのあふれている心というものは、説明するより認める方が簡単な人間の特徴です。それが何であるかを単純に、一番よく示すためには、それを表している人を見せることでしょう。ボビー・ライトはその良い例です。彼の喜びを言葉で説明するのはむずかしいのですが、彼の大きなエネルギーと動因のもとであり、人生に対する彼の態度を支えたその純粋な平安と幸福については、彼を知っていた人たちは少しも疑いませんでした。新約の使徒たちのように、彼は主イエス・キリストに対する自分の信仰のゆえに、「栄えに満ちた喜びにおどっている」ことができました（Ⅰペテロ一・8）。そして、「私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません」（Ⅲヨハネ4）と言うことができたのです。彼はしばしば、自分の「霊の子供」について、また、福音を伝えるために自分が神に用いられている喜びについて語りました。

この深い幸福の実際的な結果として、ボビーはほとんどの人に忘れられない印象を残しました。彼には彼独特の、人生に対する積極的な態度があり、それにあの有名なユーモア

が興味を添え、そのうえ彼は、狭量なことや形式にこだわりすぎることに對しては全く關心を払いませんでした。彼はまた、他の人たちが特に重んじるいろいろなものには非常に低い評価をつけました。

この書に例証されている彼の選んだ生活様式と活動は、彼を顕著な「変わり者」にしましたが、これはある人たちを当惑させました。あまりにも明白な才能の持ち主であるこの人がそのような選択をしたことは、「才能も利益につながらなければ何の役にも立たない」と考えるこの時代の多くの者には不可解なことでした。二十世紀の西洋の世界では、「利益」ということは一般に金銭的報酬、または個人的名声を意味します。ポビーの人生観はこれと異なっていたので、彼の言葉は、しばしば、そのような見解を持つ人々の心を乱したのでした。しかし、自分の生涯のすべてを神にお任せすることは、彼に恐るべき自由と喜びを与えました。それは彼のような靈的洞察力のない人には理解できないことです。

ポビーの与えた衝撃は、会話の中で人の平衡をくずす（たとえば、この世の価値から急にクリスチャンの価値に切り換える）ことに巧みであったことよって強められました。彼は、相手を納得させるために、月並みの会話をひっくり返すことに精通していました。それが引き起こす精神的かるわざを私が初めて経験したのは、私が初めて彼と話した時で

した。当時、伝道者として日本にいた私のおじアレック・ファレルからのあいさつをカリックファীগスのボビーに伝えた時、彼が最初に言ったこと、「彼はばかだね」に私はあつけにとられました。私はこれを、私が考えていた普通の会話の手本に当てはめようと努力しましたが、だめでした。「良い職ときれいな家を残して、妻と小さい子供を連れて地球の向こう側に行ったのだから。」それでわかりました。彼の目の輝きが証明していたのです。それは、ボビーによってこのようにあわてさせられた多くのクリスチャンがよく知っている挑戦——「あなたはいつ行くのですか」でした。

彼のやり方が、しばしば慣例に従わない、奇抜なものでさえあったにしても、それは彼のチャレンジの言葉を宣伝するには、信者にも未信者にも大へん効果的でした。それは彼の人生観を表し、彼にとって何が尊いかを示したので、彼の主張を納得させるのに役立ちました。彼の信仰は、正式な場合に着用する「デザイナー」キリスト教ではありませんでした。彼は、毎日着用できて、しかもいつまでも続く衣に関心を持っていたのです。はないこの世の安楽と期待の代わりに、彼は、神のしもべとしての、また神の子としての、より大きな、より永続的な喜びを選ぶ覚悟でした。

一九八〇年の半ばから彼が天に召された一九八八年まで、ホワイトヘッドという北アイ

ルランドの小さな町のベタニヤ・ホールの信者たちは、ボビーの親交、模範、教え、経験の恩恵を受けました。彼が、アイルランドマギー街の雑草の中に建てた古い木造の小屋の中で日本にいた時のことを語ったあとで、この書を出す計画が生まれたのでした。妻アイリーンと他の幾人かの人は、彼の話を広める一番よい方法は、彼の働きについての記録を書き記すことだと、かなりの間、考えていました。この考えが完全な書物にまで進展した大きな要因は、ベルニー・リードが伝記作者の仕事を喜んで引き受けたからです。その時、修士号の研究を完成しようと多忙をきわめていたにもかかわらず、彼女はその企画に同意しました。アイリーンから多くの助けとさしずを受けながら、種々の資料を調べるために多くの時間を費やしました。こうして世に出たこの本が、これを読むすべての人の励ましとなりチャレンジとなるよう期待します。

いくつかの場面で、私は、私たちに挑戦をなげかけるボビーの顔の表情の変化を思い出しました。目のきらめきが消えて、彼はまじめな顔で言います——「ね、いいですか。」ベルニーと他の人たちの努力は、この本がボビーの模範と彼のメッセージの挑戦を広める助けとなれば、豊かに報いられることになるでしょう。その結果、主が栄光をお受けになることがボビーの願いであるはずです。

ダビデ・ベル